



**2018年3月期 第2四半期
決算補足説明資料**

2017年 11月2日 (木)

**ウェーブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
(東証二部)**

- 売上高 14,381百万円（前年同期比 2.7%増）
 - ・ インテリア事業および産業資材・包材事業の販売好調が売上増に寄与
 - ・ アドバンステクノロジー事業におけるPMMA/PC 2層シートが想定より低調も、連結全体としてはおおむね順調に推移
- 営業利益 1,118百万円（前年同期比 23.8%増）
 - ・ インテリア事業における販売好調による操業度向上、生産効率の向上等による原価低減や、継続的なコスト削減等が利益増に寄与
 - ・ 国産ナフサ価格は想定43,000円/kLに対して平均40,500円/kLとなるも、期初在庫の影響等の市場価格とのタイムラグやナフサに連動しない部分のコスト等もあり、収益に与える影響は約20～30百万円程度と限定的
 - ・ 7/18公表の第2四半期累計期間営業利益を、118百万円超過
- 第2四半期累計期間での営業利益の超過、および、下期における若干の営業利益の増加を想定し、通期の業績予想を修正
- 通期の業績予想の修正に伴い、期末配当金を1円増配し、年間配当金を25円とする

- 売上高は、前年同期比2.7%増で堅調に推移。インテリア、産業資材・包材が牽引
- 営業利益は1,118百万円となり、前年同期比23.8%増。7/18公表の上期予想値を118百万円上回る
- 営業外収入として為替差益（前年同期比+113百万円）が貢献し、経常利益は前年比+31.2%

(単位：百万円)

	2017年3月期 第2四半期累計 (実績) ^{※1}	2018年3月期 第2四半期累計 (実績)	前年同期比 増減	前年同期比 増減率	7/18公表 上期業績 (予想)	達成率	7/18公表 年間業績 (予想)	進捗率
売上高	14,010	14,381	+371	+2.7%	14,300	100.6%	28,100	51.2%
営業利益	903	1,118	+214	+23.8%	1,000	111.9%	1,650	67.8%
経常利益	988	1,297	+308	+31.2%	1,160	111.9%	1,990	65.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	716	954	+238	+33.2%	830	115.0%	1,430	66.8%
1株あたり 当期純利益 ^{※2}	64.43	97.36			85.18		146.76	

10/31
業績予想
の修正を
発表

※1：2017年3月期第2四半期については四半期連結財務諸表を開示しておりませんが、有限責任監査法人トーマツにより、東京証券取引所の「有価証券上場規程」第204条第6項の規定に基づき四半期レビューが実施された「新規上場のための四半期報告書（第54期第2四半期）」の数字を掲載しております。

※2：発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2017年3月期第2四半期は11,120,538株、2018年3月期第2四半期は9,805,238株です。

インテリア事業

- 売上高は、**前年比+7.8%**
内、(株)サンゲツ向け数量は約18%増
- 新設住宅着工戸数は前年比伸び悩む中、(株)サンゲツの壁紙見本帳への当社グループ製品の掲載点数の増加等が、引き続き販売に寄与
- 生産能力の増強による増産体制の構築、生産効率の向上による原価低減や継続的なコスト削減が利益を押し上げ

編織事業

- 売上高は、**前年比△1.0%**
- 生活資材分野において、園芸向け防草シートの販売等が奏功し、販売はおおよそ前年並みと堅調
- 国内・海外工場における生産効率の向上や原価低減、継続的なコスト削減が利益に寄与

産業資材・包材事業

- 売上高は、**前年比+3.4%**
- 産業資材分野において、建設および住宅関連業界での堅調な需要や、防煙垂壁用途の高透明不燃シート、間仕切りシート等が好調に推移
- 包材分野において、コンビニエンスストア向けの食品容器が底堅く推移

アドバンステクノロジー事業

- 売上高は、**前年比△9.5%**
- 金属調加飾フィルム分野において、インド・東南アジアにおけるエンブレム用途の新規採用や、中国での自動車内装案件等が好調に推移
- 国内自動車内装案件の減少分をカバー
- PMMA/PC2層シート分野は、中国での販売不振や設備トラブル等を主因として苦戦中
- 医療用湿布基材の受注が復調

セグメント概況

(単位：百万円)

	2017年3月期 第2四半期 累計 (実績) ^{※1}	2018年3月期 第2四半期 累計 (実績)	前年比 増減	前年比 増減率	7/18公表 年間業績 (予想)	進捗率
売上高	14,010	14,381	+371	+2.7%	28,100	51.2%
インテリア	4,027	4,341	+314	+7.8%	9,000	48.2%
編織	4,869	4,822	△47	△1.0%	8,350	57.8%
産業資材・包材	4,478	4,630	+152	+3.4%	9,600	48.2%
アパレルテクノロジー	1,815	1,643	△171	△9.5%	3,600	45.6%
その他・消去	△1,179	△1,055	+123			
営業利益	903	1,118	+214	+23.8%	1,650	67.8%
インテリア	230	408	+177	+77.2%	640	63.8%
編織	470	553	+83	+17.8%	660	83.9%
産業資材・包材	168	196	+27	+16.2%	340	57.7%
アパレルテクノロジー	183	130	△52	△28.7%	380	34.4%
その他・消去	△149	△170	△21			

※1：2017年3月期第2四半期については四半期連結財務諸表を開示していませんが、有限責任監査法人トーマツにより、東京証券取引所の「有価証券上場規程」第204条第6項の規定に基づき四半期レビューが実施された「新規上場のための四半期報告書（第54期第2四半期）」の数字を掲載しております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

(単位：百万円)

資産	2017年3月期 第2四半期 (実績) ^{※1}	2017年3月期 末(実績)	2018年3月期 第2四半期 (実績)	前年度末比 増減	概要
流動資産	15,495	15,240	15,936	+696	
現預金	2,625	2,062	2,295	+233	
営業債権	7,095	7,292	7,890	+598	売上の拡大に伴う増加
棚卸資産	5,314	5,350	5,307	△ 43	
その他	459	535	442	△ 92	
固定資産	13,658	13,301	13,166	△ 135	
固定資産	12,310	12,115	11,967	△ 147	
その他	1,347	1,186	1,198	+12	
資産合計	29,153	28,541	29,102	+560	
負債・純資産	2017年3月期 第2四半期 (実績) ^{※1}	2017年3月期 末(実績)	2018年3月期 第2四半期 (実績)	増減	概要
負債	19,975	19,583	19,069	△ 513	
営業負債	3,520	3,808	4,255	+446	売上の拡大に伴う増加
有利子負債・社債	11,387	10,816	10,034	△ 781	借入金・社債の返済
負ののれん	989	795	601	△ 194	負ののれんの償却
退職給付引当金	2,072	2,070	2,074	+4	
その他	2,005	2,092	2,103	+10	
純資産	9,178	8,957	10,032	+1,074	
株主資本	9,058	8,729	9,830	+1,101	当期純利益の増加+954 ストックオプションの権利行使+122
その他の包括利益他	120	228	202	△ 26	

※1：2017年3月期第2四半期については四半期連結財務諸表を開示していませんが、有限責任監査法人トーマツにより、東京証券取引所の「有価証券上場規程」第204条第6項の規定に基づき四半期レビューが実施された「新規上場のための四半期報告書（第54期第2四半期）」の数字を掲載しております。

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2017年3月期 第2四半期 (実績) ^{※1}	2018年3月期 第2四半期 (実績)	増減	概要
税金等調整前当期純利益	985	1,298	+312	インテリアをはじめ、各分野での設備投資により増加
減価償却費	415	483	+67	
負ののれん償却額	△ 194	△ 194	-	
退職給付引当金	115	12	△ 102	
運転資本増減	460	△ 114	△ 575	売上の拡大に伴い運転資金増加
法人税等支払額	△ 123	△ 238	△ 114	
その他	310	29	△ 281	未払消費税等の増加が前年+209、今期△158
営業キャッシュ・フロー	1,970	1,275	△ 694	
固定資産の収支	△ 1,658	△ 347	+1,311	
投資有価証券の収支	△ 1	△ 1	△ 0	
その他	△ 0	+0	+0	
投資キャッシュ・フロー	△ 1,660	△ 348	+1,312	
フリーキャッシュ・フロー	309	926	+617	
借入金・社債の収支	503	△ 781	△ 1,284	借入金・社債の返済進む
ストックオプションの行使による収入	-	121	+121	
その他	△ 16	△ 28	△ 11	
財務キャッシュ・フロー	486	△ 688	△ 1,175	

※1：2017年3月期第2四半期については四半期連結財務諸表を開示していませんが、有限責任監査法人トーマツにより、東京証券取引所の「有価証券上場規程」第204条第6項の規定に基づき四半期レビューが実施された「新規上場のための四半期報告書（第54期第2四半期）」の数字を掲載しております。

- 第2四半期累計期間は、インテリア事業において販売が堅調に推移したことにより操業度が更に向上、ならびに製造経費や材料費の削減が奏功し、営業利益以下が前回予想よりも増加
- 通期については、第2四半期累計期間の結果を踏まえ修正

【第2四半期連結累計期間及び通期連結業績予想】

(単位：百万円)

	2018年3月期 第2四半期 累計 (実績)	公表予想 との差異額	増減比	2018年3月期 通期 (今回修正予想)	前回予想 からの 増減額	増減比
売上高	14,381	+81	0.6%	28,100	±0	0.0%
営業利益	1,118	+118	11.9%	1,800	+150	9.1%
経常利益	1,297	+137	11.9%	2,170	+180	9.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	954	+124	15.0%	1,600	+170	11.9%

基本方針

- 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向^{※1}が20%から30%となることを目安に
しつつ、安定的な配当を実行・維持すること

※1 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向

$$= \frac{\text{配当総額}}{\text{（親会社株主に帰属する当期純利益 - 負ののれん償却額）}}$$

2018年3月期 配当の修正

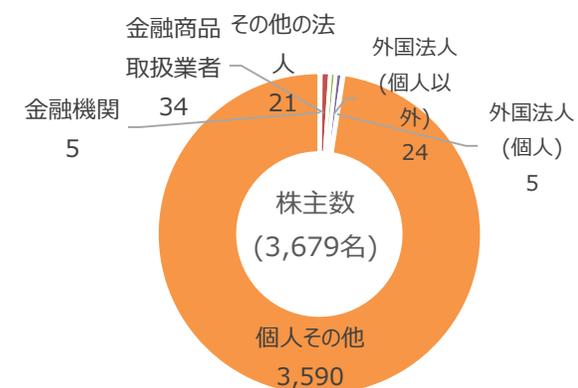
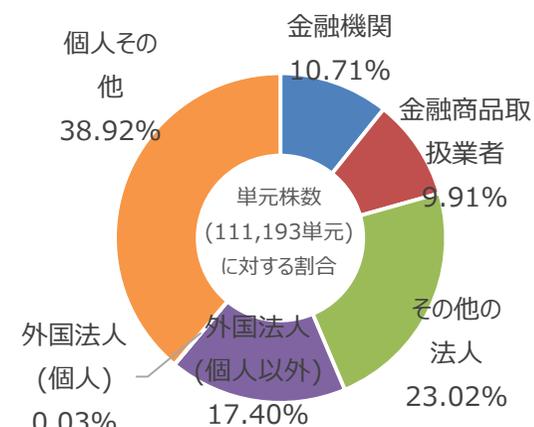
- 第2四半期累計期間における中間配当金を、前回公表のとおり12円に決定
- 期末配当については通期業績予想の修正を受けて、12円から13円に修正。結果、年間の配当金は25円となる見込み
- 年間業績見通しをベースに負ののれん償却額の影響を考慮すると配当性向は20.5%^{※2}となる

基準日	1株あたり配当金（円）		
	第2四半期末	期 末	合 計
前回予想 (5月10日公表)	12円	12円	24円
今回修正予想		13円	25円
当期実績	12円		

※2 発行済株式総数から自己株式数を控除して計算

- 2017年3月末に筆頭株主であったエムシーピースリー投資事業有限責任組合は、4/10の上場時の売出により、その持分のほとんどを売却。その後、全ての株式を売却
- 2017年9月末における筆頭株主は、発行済株式総数の22.21%を保有する、業務資本提携先の(株)サンゲツ
- 株主総数は3,679名

順位	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1	(株)サンゲツ	2,470,000	22.21
2	自己株式	1,202,973	10.82
3	Entire Holding Group Ltd.	876,027	7.88
4	日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	604,300	5.43
5	BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	474,837	4.27
6	資産管理サービス信託銀行(証券投資信託口)	269,400	2.42
7	SBI証券	229,000	2.06
8	木根 純	213,307	1.92
9	日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	192,000	1.73
10	田村 健	170,000	1.53
	その他	4,418,694	39.73
	Total	11,120,538	100.00



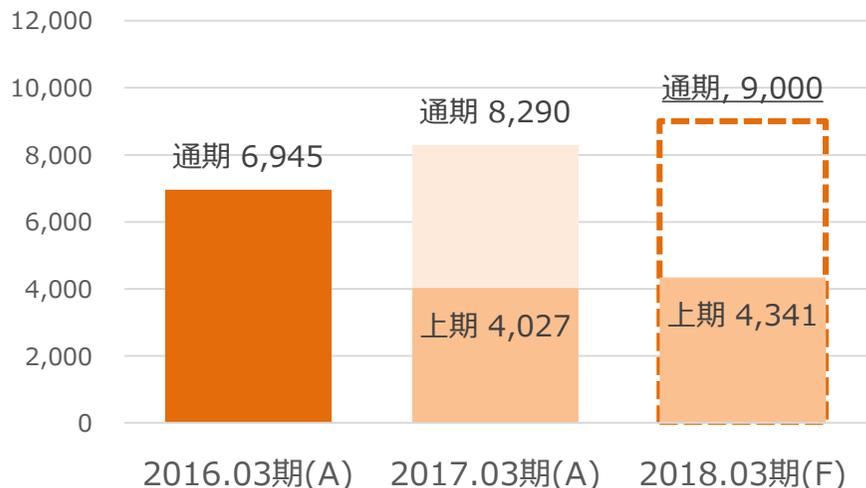
セグメント別 概況

(単位：百万円)

トピックス

- 今年度上期における(株)サンゲツ向けの販売数量は、前年比約18%伸張。市場伸張率を上回る。
- 上期の好調を受け、年間の営業利益見込みを640百万円→740百万円に
- (株)サンゲツの新量産見本帳『SP』が2017年7月に更改。市場への浸透が進む下期以降、更なる販売数量増に期待
- 今後、(株)サンゲツの中級品見本帳が更改予定。増点ならびに売れ筋企画の提案により販売の底上げを狙う
- 2017年2月に完了した一関工場の増設・統合が数量増に対応。今後の更なる増産体制構築により、製造効率のアップと原価低減を図る

売上高



営業利益



サンゲツ
量産品見本帳



2017-2019 SP
(2017年7月更改)

サンゲツ
中級品見本帳



2016-2018
リフォームセレクション



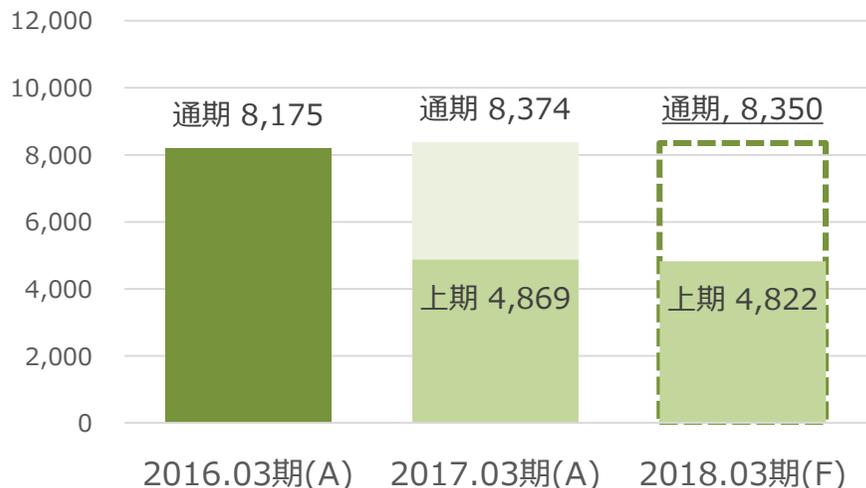
2016-2018
リザーブ 1000

(単位：百万円)

トピックス

- 国内での安定的なシェアを維持
- 今年度の需要期は終了。3月のホームセンターのシーズン初回導入に向け営業活動に注力
- 虫のイヤがる網（薬剤入り網戸防虫ネット）の水平展開として、同様に虫が嫌がる薬剤を練り込んだ「虫イヤテープ」を上市
- 大連嘉欧農業科技（中国生産子会社）における販売、生産が本格化、利益増に貢献
- 中国、東南アジアにおいて防虫資材や遮光資材による農業試験を展開。農作物生育のパフォーマンス向上や減農薬を実証の上、今後の海外販売につなげる

売上高



営業利益



大連嘉欧農業科技



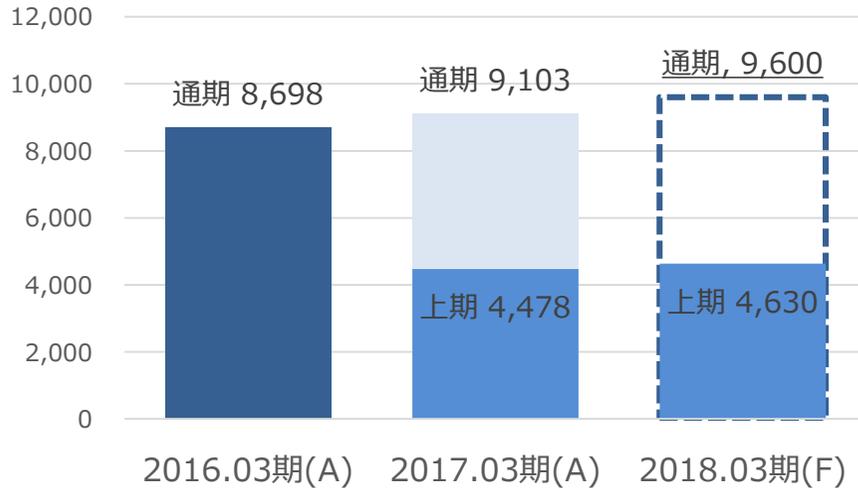
中国における農業試験

(単位：百万円)

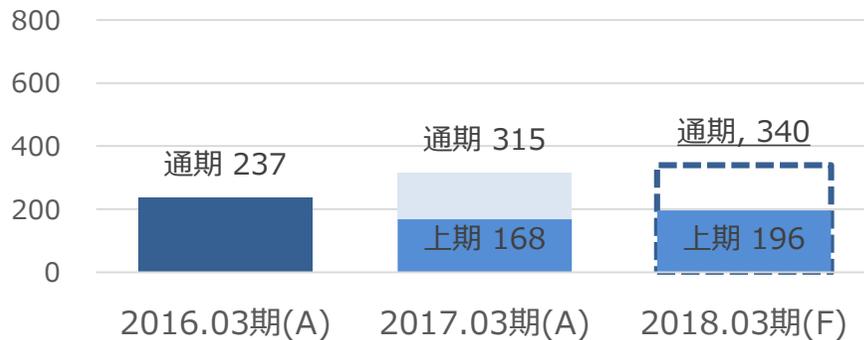
トピックス

- 産業資材分野では、引続き建築関連市場の底堅い需要に加え、防煙垂壁用途の高透明不燃シート等が好調に推移
- 工場や物流倉庫内での間仕切りシートやカーテン、シートシャッターなどが順調に伸張
- 包材分野では、コンビニエンスストア向けの食品容器が底堅く推移
- 短期的な原材料単価の上下に対し、機動的に販売価格への転嫁を図る

売上高



営業利益



大型ショッピングモールの防煙垂れ壁



物流倉庫等のシートシャッター

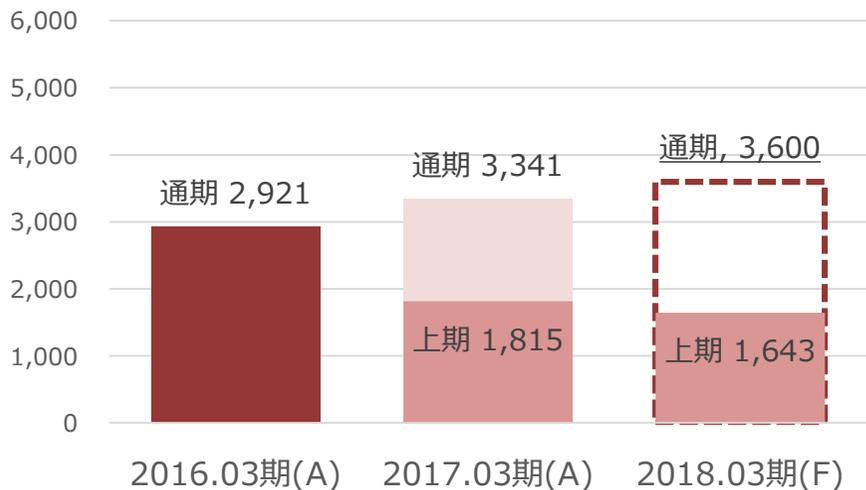


工場内の間仕切りカーテン

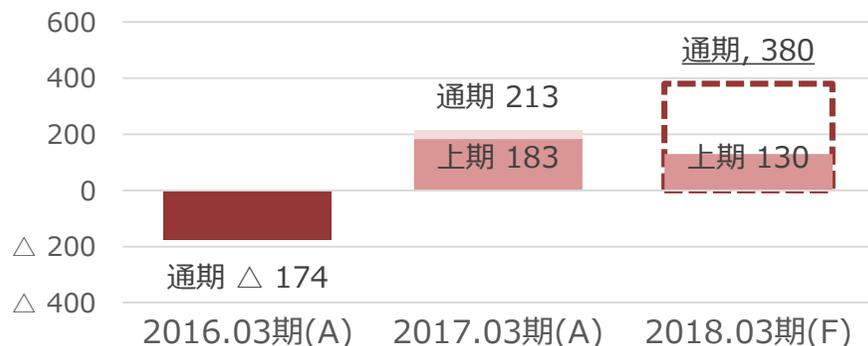
(単位：百万円)

トピックス

売上高



営業利益



- 金属調加飾フィルム分野において、国内自動車内装案件の早期エンドをむかえつつあり、想定より販売が低調。
- 反面、インド・東南アジアにおけるエンブレム用途の新規採用や、中国での自動車内装案件等が好調に推移。自動車分野以外への採用も拡大。
- 今後も国内内装案件の減少を中国、東南アジア・インド、北米等への拡販や新分野への採用で補い、利益率の向上を図る。
- PMMA/PC2層シート分野は、中国での販売不振や設備トラブル等を主因として苦戦中



光透過加飾
(自動車)



光透過加飾
(自動車)



ソフトエンブレム
(バイク)



ラベル装飾
(ウイスキー)

参考： <http://www.lincoln.com/luxury-suvs/navigator/2018/>

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。